

欧州 ～ギリシャ悲劇の結末は?～

経済調査部 主席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)

瀬戸際戦術がもたらした不信感

緊縮見直しを掲げて1月に誕生したギリシャのツィプラス政権の戦いが終幕に近づいている。欧州連合(EU)や国際通貨基金(IMF)との対決姿勢を露にし、交渉期限のギリギリまで粘ることで最大限の譲歩を引き出そうとしたギリシャ政府の瀬戸際戦術は、支援提供国の世論の反発と不信感を招く結果につながった。6月末にはEUによる支援プログラムが失効し、中断していた融資を受け取る権利を失ったほか、先進国として初のIMFの債務遅滞国になった。ユーロ離脱や銀行経営への不安の高まりから、預金流出が加速し、ギリシャ政府は銀行の営業を停止するとともに、預金の引き出しや海外送金を制限する資本規制の導入に追い込まれた。銀行の機能不全により、国民生活や企業活動に深刻な影響が及んでいる。

緊縮受け入れの是非が問われた7月5日の国民投票では、受け入れ反対票が多数を占めた。民意を盾に債権者側に譲歩を求めるとしていたツィプラス首相を待ち構えていたのは、金融システムの崩壊危機とユーロ離脱の足音だった。早期の融資再開が必要と判断した政権は、国民投票後に大きく舵を切る。問題発言の多かった財務相を交代させ、債権者側の要求をほぼ全面的に受け入れた財政再建策を提出し、資金支援を求めた。だが、債権者側のギリシャ政府に対する不信感は根強く、さらに厳しい要求を突きつけられた。17時間に及んだ12日のユーロ圏首脳会議では、ギリシャが改革要求を受け入れ、金融支援を再開することで基本合意に達した。

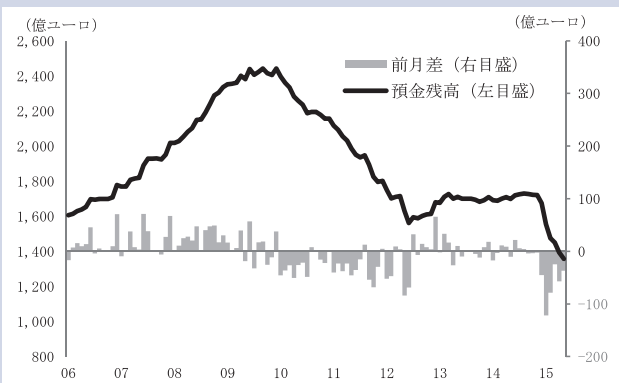
ユーロ離脱はギリシャの悲劇

ドイツ政府は12日の首脳会議に先駆けて、ギリシャが改革要求を受け入れられないならば、一時的にユーロから離脱させることを提案した。フランス政府の反発もあり、首脳会議ではユーロ離脱議論は封印したが、ギリシャが改革実行を怠ると、いつ離脱議論が再燃したとしても不思議でない。

ギリシャがユーロを離脱する場合、ユーロに代わる新たな通貨を発行する必要がある。信用力に乏しいギリシャ政府が発行する新通貨の価値はユーロよりも大きく劣ることが予想される。ユーロ建てで発行されたギリシャの対外債務の返済負担は膨れ上がり、銀行預金は目減りする。ギリシャは原油、医薬品、食料品など生活必需品の多くを輸入に頼っており、輸入品価格の高騰は市民生活を直撃する。銀行救済費用の捻出や公共サービスの提供に紙幣を大量に増刷すれば、物価の高騰を招く恐れもある。購買力の高まった海外からの旅行者が増加することが期待されるが、ギリシャには目立った輸出産業がなく、通貨切り下げのメリットは限られる。ユーロ離脱後のギリシャ経済は今よりも厳しい状況が待ち構えている。

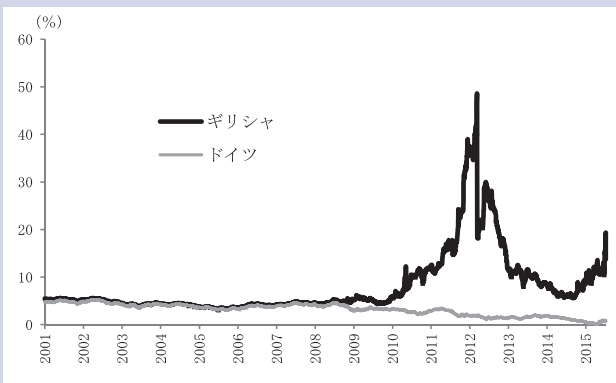
古代のギリシャ悲劇の多くは、最後に登場する神が事態を收拾して閉幕すると聞く。ギリシャは厳しい改革を受け入れてユーロに残留するか、ユーロを離脱してさらなる苦難の道を歩むか、難しい選択を迫られている。ギリシャの将来を左右する最終幕がいま始まろうとしている。(執筆時点:7月13日)

資料1 ギリシャの銀行預金の推移



(出所) 欧州中央銀行資料より第一生命経済研究所が作成

資料2 ギリシャとドイツの10年物国債利回りの推移



(出所) Thomson Reutersより第一生命経済研究所が作成